

黎明インターンシップ通信 No.9

～ インターンシップ 2-3 日目 ～

平成 28 年 6 月 29・30 日

初日の緊張も解け、現場に少しずつ慣れてきた生徒たち。2-3 日目もそれぞれの受入先において、さまざまな挑戦の姿がありました。

探究基礎の流れ

キックオフミーティング

コミュニケーション講座

ソクラテスミーティング

感想交流

インターンシップ希望調査

エントリーシート

マナー講座

★インターンシップ

お礼状作成

報告会

エコフォレストの取引先に廃材の回収に同行した 105・高橋君と村田君。なんと、そこには、西尾張 CATV の高校生レポーター吉浦君（104 組）が。資源をリサイクルすることの大切さや、作業の大変さなどがガチガチに緊張しながらも語ってくれました。実際の放映では、どんな感じに映るのか楽しみです。そう言えば、取材時だけ、雨が止んでいたような…。ラッキー！



午前中に、取材が入った八村呉服店では、104・加々良向日葵さんが奮闘中。昨日は展示会の片付けや掃除をメインにお店の裏方を体験させていただき、今日は着付け教室に参加させていただきました。自前の浴衣を着付けしてもらい、「浴衣は着ることはあるけど、なかなか帯が上手に出来ないので、帯の結び方を覚えて帰りたい！」と積極的。取材も「緊張する～」とはにかみながらもしっかりと受け答えをしていました。今日の目標は「昨日掴んだ雰囲気から自分から積極的に行動する」。何事にも真面目に、前向きに取り組む姿が頼もしかったです。

弥富市立歴史民俗資料館を志望した 103・佐久間音葉さん。歴史が好き、日本刀が好きとマニアックな一面がある佐久間さんですが、好きなことはとことん追求する派。資料館では、歴史的な資料の整理や入力を体験しましたが、「歴史の資料を見ると、とてもワクワクする」と歴女らしい発言が。学芸員の服部さんからは、「今は日本刀ブームでアニメでも日本刀に関する物があるので、アニメだけが好きかと思ったら、実際に見学にも行っていると聞いて、びっくりしました。この仕事が向いているかもしれませんね。学芸員はポストが空くのが大体 10 年～15 年なので、大学院まで行けば、ちょうど僕のポストが空きそうですよ。」と話してくれました。来月は徳川美術館で普段は見れない日本刀が見れるので行くんです！と目を輝かせながら話してくれるほど日本刀好き。インターンシップを通じて、少し将来にもつながったかな？



JOCA でお世話になっているのは、104・梅村敦也君と渡邊賢人君。今日はスタッフの方が使うワークショップの資料作成を丁寧に 2 人で手分けして行っていました。協力隊に参加した方からはブラジルやパラグアイなどの体験談も聞き、2 人とも海外に行きたい、海外で住みたい！と話しています。中でも渡邊君は中学 3 年生の時に名古屋市の事業でアメリカに行った経験もあり、仕事はきちんとこなしながらも、既に気持ちは海外に飛んでいるようでした。



希望調査で人気の高かった愛知レジンでの体験を射止めた4人(103・西田光汰君、105・梶優也君、野田将吾君、山本健翔君)は、作業着姿で塗床を体験中。昨日は床を削りその上に塗料を塗り、今日は卵に吹き付けるとバットで打てるぐらいの強度があるLINE-X(ラインエックス)を床に吹き付ける作業。3日間かけて、愛知レジンさんが仕事で行っている作業を体験させてもらいます。西田君は、「機械1つ1つが重たく大変だった。塗床の体験をさせてもらったが、これが大きな工場一面の作業となるとイメージがつかないほど大変なんだと思う」と。梶君は、お祖父さんが長島のアンパンマンミュージアムの設計をしているそうで、アンパンマンミュージアムに使用されている同社の仕事に興味を持ったのだとか。「授業より全然楽しい!」と話していました。担当していただいている方からは、「みんな部活をやっているからか挨拶や返事はバッチリ。10分前行動が出来るし、話を聞く時は前のめりになって聴いてくれるし、自ら進んでやりたいという気持ちさがすごく現れていて、社員にも良い刺激になっています。」とべた褒め。さすが志望動機をビッチリ書いただけある4人。私たちも褒められるととても嬉しいです。

介護福祉施設のSOMPOケアラヴィーレ名古屋中村を訪れているのが、104・後藤魁君、諏訪晃平君、105・深味竜司君。巡回時にはカレンダーの色塗りというレクリエーション中でしたが、3人とも沈黙続き。ホーム長からは、「初めての体験でどうして良いのか分からないかもしれないが、思っていたよりも、みなさん大人しいですね。もう少し積極的に話かけてもらえると良いですね。」というお言葉が。ただ、中でも深味君は入居者様に積極的に話をしたり、スタッフのみなさんと休憩中に野球について話をするなど頑張っている様子も伺いました。自分の祖父母とは話が出来ても、初めて会う年上の方と何を話して良いか迷いますよね。今日が最終日、少し吹っ切れて話ができてしていると嬉しいです。そうそう、後藤君、寝坊して遅刻しないでね! 深味君、せっかくお褒めの言葉を頂戴したのだから、居眠りはダメだよ!



明範荘特別養護老人ホームで体験中の105・高山綾介君と富田一気君。掃除や移動チェア・リフトの体験、洗い物の手伝いや散歩での車椅子補助などをさせていただきました。巡回した際には、しゃぼん玉のリクリエーション中で、利用者様に促されて、恥ずかしそうではあるけれど、お願いされて嬉しそうにしゃぼん玉をつくる2人。無口なのが気になりましたが、嫌とも言わずにずっとしゃぼん玉を利用者様のために作り続けていました。担当者の方からは、「返事も挨拶もきちっとできていますよ。2人とも学校とは違って大人しいようですね。難しいかもしれませんが、もっと自分から話しかけたり、会話をしてもらえると良いですね。」と。黙々と真面目に取り組んでいる姿が印象的でしたが、ご高齢の方が多い中で少しずつでも話しかけられると会話の幅が広がりますよ。頑張って!!



磯村医院さんにお世話になっている103・春日柚樹也君と山崎力哉君。初日は介護の座学や車椅子体験をし、今日は実際に車椅子を押して散歩に出かけることにも挑戦。「車椅子を押す時の注意点をしっかり守りながら、時にはうっかりもあったようですが、丁寧に積極的に行動する姿が見られた」と担当者の方が話してくださいました。なんだか探究基礎の講座時より活き活きしている様子ですね! 春日君の今日の目標は「利用者様の視線まで腰を落とし視線を落としてコミュニケーションをとる」。山崎君の目標は「相手を気遣う」と、初日に気が付いた点から自分なりの目標を立てていました。初めての体験で戸惑うこともあるようですが、真剣に話を聞く姿勢が良いとお褒めのお言葉もある一方で、「メモを取る癖をつけましょう!」とも教えてもらっていました。2人とも「メモの取り方が分からない・・・」と話していましたが、社会に出れば自分で考え、自分で行動することが必要になることを少しは学べたのではないのでしょうか。



104・森君、森嶋君、105・内田君が向かったのは、名古屋市港区、金城ふ頭にある「テバオーシャンアリーナ」です。プロフットサル専用のアリーナとして、全国でも珍しい施設です。アリーナが意外と広かったと、森君。トイレが綺麗だったと、内田君。今後、トップチームの練習補助も予定されているとか。プロスポーツの様々な仕事について、体験を通じて少しでも何かを感じ、黎明のみんなに共有して下さい。

セントラルビューティストカレッジ（CBC）から、103・大野君は、イオンタウン弥富店の中にある、ファミリーヘアサロン「デューポイント」に向きました。店内では店長？に呼び止められ、お客さんとコミュニケーションと取る機会を与えてもらいました。CBCでもデューポイント様でもフレンドリーに迎えてもらい楽しいとコメント。初日に挨拶の声の大きさを指摘されたようで、課題もきちんと自覚していたようです。



白鳥保育所では、103・則次君と105・大橋君が子ども達の仲良く遊んでいました。思っていたよりも保育士は大変と大橋君。子どもたちに自分の思いが上手く伝えられないと則次君。黎明の先生も皆に対して同じように思っているかも？と聞いたら、苦笑いを見せていました。

弥生保育所では、104・伊佐治君と細川君が頑張っていました。とても面倒見切れませんと、伊佐治君。得意な野球と勝手が違う様子です。子ども達の目線に合わせるよう心がけていた感じの細川君。子ども達と一緒に穏やかな表情で先生の絵本の読み聞かせを聞いていました。



西部保育所では、男子4人が人気者に！幼児を接するのが慣れている105中島君。妹のようでかわいいと、終始ひざまづいてお世話していました。上履きを忘れてしまったという103・川人君。未使用の外履きを代わりに使用させて下さいと自ら申し出るなど自分で考えて動いていたと評価されてました。103・山本君は、職員が椅子を片付けているところをすぐに手伝います！と声をかけてくれたそうです。真っ先に営めてましたよ。105・鈴木圭君は、子どもたちとさようならをする前、ハグするのが日課になったようで、照れることなく、しっかりと子ども達とコミュニケーションをとれていて、とても立派でした！



ひので保育所にも、人気者の男子がいました！

自分の昼休みの時間を削ってまでも、子どもたちのふれあいの時間を多く作っていたという 105・浜田君。夕方時も日報を急いで取りまとめ気づくと子ども達の輪の中に。体調崩して休んでしまった、他のメンバーの分まで、積極的に動いていました。よく頑張りました！！



十四山保育所にも、お兄さん先生が、大大大活躍！！お昼ごはんのあと、子ども達の歯磨きをなれた手つきで手伝う 104・山内君と 105・日比君。保育所の先生曰く、子どもたちもお兄さんに、いいところ見せようと頑張っているのですよ。

105・林君は紙芝居の読み聞かせに挑戦！照れることなく、丁寧にしっかりと読み上げていました。その気持ちが伝わったのか、最後は子どもたちからたくさんの拍手がありました。天気が良くなったので、園庭で得意のサッカーで子どもたちと遊ぶ、103・加賀君。将来保育士になりたいと職員に伝えたとか。とても、喜んでいましたよ。

ところで、十四山保育所では、6/30にお隣の海翔高校生がボランティア体験として3時間程、黎明高校生と同じ保育所内で過ごしました。もちろん子どもたちと過ごす時間の長かった黎明高校生は、子どもの輪にすっかり溶け込んでいました。本当の保育士のように見えてしまったのですが、これは、言い過ぎですかね！？



保育所で活躍したのは、男子だけではなく、もちろん女子也大活躍。黎明高校に一番近い、大藤保育所では、104・山下さん、105・宇佐美さん、黒宮さんが頑張っていました。みんな、子どもたちに自然と絵本の読み聞かせをしたり、手洗いを手伝ったり、どの生徒も自分たちからよく動いていますよ！と所長様からお言葉を頂きました。保育所の方からも感謝の言葉を頂けて嬉しい限りです。



栄南保育所でも、男子3名の普段はあまり見ることのできない、とても良い表情を見ることができました！

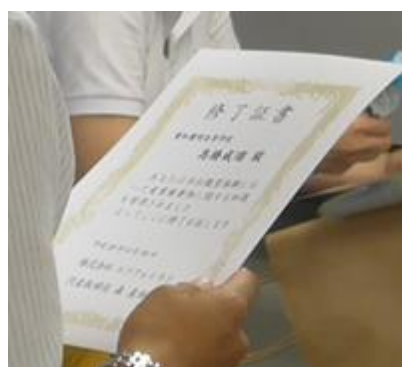
鬼ごっこで、園庭の隅の方まで逃げってしまった子どもを見て、微笑む103・大林君。子ども相手に決して手抜きをせずに思い切り遊んでいた103・出雲君。今から遊ぶぞーっと、子どもたちの荷物を先生に代わって持って、階段を降りてきた103・近藤君。どの生徒も自分たちで考え、積極的に動いてくれますと、所長様よりまたまた、嬉しいコメント頂きました。子どもたちとのふれあう楽しさを体全体で表現しているような、彼達でした！、



104・廣澤さんは、セントラルビューティストカレッジ（CBC）から、名駅にあるおしゃれなヘアサロン「プレシヤスヘア名駅店」に出向きました。タオルたたみやコップ洗いなど、指示されたことはきちんとこなしている感じでした。ずっと立ち仕事が辛いと感想を教えてくださいました。担当のスタッフからは、もっと明るく、開放的になってくれたら良いのにとアドバイスを頂きましたが、たくさんの大人たちに囲まれながら、サービス業で働くことの大変さを感じていたようです。

【番外編】

5月初旬のソクラテスミーティングの講師でも来校頂いた、エコフォレスト・森社長より、生徒一人一人にオリジナルの修了証と記念品が授与されました！未来を創るのは、皆さん次第と暖かくも心強いメッセージも頂きました！



「礼儀正しい生徒さんたちですね。」これは、ここ1,2年受入先の皆様からよく聞く言葉でしたが、今年は、それに加え、「自分たちからよく動く生徒さんたちですね。」という言葉もよく聞きました。まわりの大人たちは、きちんと生徒の頑張りを見てくれています。

インターシップ期間最終日の7月1日は、一体どんなドラマが待っているのか。とても楽しみです！！